



いんたびゅう 今、この人に Interview

私たちは人と触れ合い、交わることで「人間」になる。
いろんな交わりを通して、日本の社会を良くする助けになりたい。

水口キリスト福音教会 牧師

オリカインェン マルクさん

■マルクさんは宣教師として、多くの国を回ってこられたのですか？

イギリスや中東にも行ったことがあります。そのときは勉強のためでした。宣教師として来たのは日本だけです。私にとっては地球が住まい、フィンランドという部屋から日本という部屋へ移ってきました。どこに行っても家にいます。フィンランドは旅立つ出発点だという人生です。

■そんな中で、滋賀県の印象は？

住めば都、で私は世界中どこでも生きていけますが、湖があって森がある滋賀の環境はフィンランドとよく似ていて懐かしい感じがします。

■日本に来て、したいと思ったことは何ですか？

現代は科学の時代で、目に見えないものは無視して人間の五感で知ることのできる世界がすべてになりました。でも、五感だけに限定してしまったことで人生について考える幅が狭くなり、多くの人が生きづらくなるという問題が起こっています。私は目に見えない世界があることを知っていますが、本当の交わりは、人同士でも心が通じ合う目の見えないものの中にあります。そういう世界観を通して、日本の力になりたいと思ったのです。

■「ひよこくらぶ」の活動もその一つですか？

そうですね。「ひよこくらぶ」は言葉の問題で居場所がなく困っていたブラジル人親子を助けようと、水口キリスト福音教会で私と保育士の資格を持つボランティアとで始めた親子教室です。その後ブラジル人のコミュニティーが出来上がり、現在「ひよこくらぶ」では日本人の親子が集まって交流を深めています。

■フィンランドは教育水準が高いことで有名ですが、日本の教育とどんな違いがありますか？

社会のための人を育てる、そして世界に出ていくことができる人を育てるための教育を実践していることです。すべての子どもが社会に出て自立できるように、勉強の苦手な子どもも落ちこぼれさせず、平均レベルまできちんと勉強が出来るように支え教えています。そして大人としての世界観を持つために、中学校では世界の宗教などを一通り学びます。聖書の世界とヨーロッパのキリスト教の発展、善悪の問題や人との交わり、生きるためのコツを見つけることなどがテーマです。このようにして、精神的な個性を持った大人づくりをしているところが、日本との大きな違いです。

もう一つの特長は、学校で知識は学びますが、それよりも“学ぶモード”に乗るように「学ぶことを学ぶ」ということを大事にしていることです。子どもが自ら“学ぶモード”になったら、先生は子どもを手放します。学校を卒業してからの人生は長いですが、そのときにどれだけ学び、成長し続けるかで公教育が評価されているのです。

■みんな平等に教育を、という方針も徹底されていますね。

教育は大学まで無料で、学校の給食ではおいしいものがバイキング形式でたっぷり食べられます。食事も大切にしているんです。そして、先生はとてもプロ意識が高いですね。大学生の時から付属の学校で実践的に教育方法を学んでいます。理論と実践の両輪で教育を学んでいます。また「先生は地域のもの」と考えているので、転勤はほとんどなく家庭や地域との人間関係を大切にしているということもありますね。

● プロフィール ●

1957年フィンランド生まれ。宣教師として来日し、1992年より甲賀市水口町で活動を始める。1995年、親子教室「ひよこくらぶ」を開設。1997年より水口キリスト福音教会牧師。小学校の英語教師や甲賀市国際交流協会の理事など多方面で活躍するほか、多文化出身者が共生できる統合社会づくりやひきこもりをはじめとする日本の教育問題解決のため、各地で講演活動を行っている。フィンランド語、スウェーデン語、英語、ドイツ語、ヘブライ語と日本語の6か国語を学び、日々3か国語を使いこなしながら働いている。「地球が私の住まい」とグローバルに活動を展開中。

■マルクさんから見た日本の問題は？

生活が忙しすぎるということ。会社での長い労働時間が家庭生活の時間を奪っています。そうすると、心が育たなくなります。「人生はなんだろう？」「本当にこれでいいのかな？」という心の中の小さなさやきに耳を傾ける時間がなくなるからです。だから「心を亡くす」と書いて「忙しい」と言うんです。例えば子育ては、親が大人として育つことでもあります。子どもに教えられ、仕えながら成長していく。サービスを待っている人から、人に仕える人になる、それが大人になるということです。日本では、そんな人生のライフワークバランスがきちんと出来ていないことが大きな問題だと感じています。

■今後目指していることは？

日本という国がより良くなることです。私は甲賀市国際交流協会の理事もしていますが、そこには海外にある良いものを取り入れる助けをする責任があると思っています。より賢く国際化していくために、いつも成長する世界観を持ち、よりよい社会生活ができる人づくりに取り組んでいきたいですね。